校長室から

ひがしなら通心

（Ｈ２９年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．３６

平成２９年１２月７日（木）発行

みんなちがって、みんないい

金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」という詩を紹介します。。

わたしと小鳥とすずと

金子みすゞ

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、
地面(じべた)をはやく走れない。

わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのように、
たくさんのうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞさん（本名は金子テルさん）は、今から百十四年前の明治３６年(１９０３年)山口県長門市に生まれました。幼い頃から周囲に優しく、礼儀正しくて、いつも笑顔を絶やさなかったそうです。その優しさから、いろいろなものに感じて、深く考えるなかで、すばらしい独自の詩（童謡）を書き始めたのは二十歳の頃でした。

ところが、その生涯は決して明るいものではありません。二十三歳で結婚したものの、文学に理解のない夫から詩作を禁じられ、さらには病気、離婚と苦しみが続きました。大正から昭和の有名な童謡詩人の西條八十（さいじょうやそ）に「若き童謡詩人の巨星」とまで賞賛されながら、昭和５年(１９３０年)２６歳の若さで世を去りました。

でも、自然の風景を優しく見つめ、優しさに貫かれた彼女は、五百十二編もの詩を作りました。二十一世紀を生きる私たちに大切なメッセージを伝え続けています。

この詩の最後の「みんなちがって、みんないい。」というフレーズは、「みんなちがってあたりまえ」と同じ意味ですよね。すずと小鳥とわたし、それぞれに良さがあり、違いがあります。それがいい。そして「あなたはあなたでいい！」「いるだけで百点満点！」とみすゞさんはうたっているのです。

「みんなちがって、みんないい。」…。「だれもが宝物」…「いるだけで百点満点！」なのです。

今、となりに座っている友だち。前に座っている友だち。一人一人が『一人の人間』としても尊い存在です。誰もが幸せに生きる権利「人権」を持っています。そして私もその中の一人…。皆がそういう思いでいれば、きっと優しい気持ちになれるでしょう。優しい気持ちをもっていれば、人と優しく接することができます。そして、「いじめ」なんていう言葉は、あなたのクラスからなくなると思います。この東奈良小学校からもなくなると思います。

「みんなちがって、みんないい」、「みんなちがってあたりまえ」…とても大切にしたい言葉ですね。

こんなメッセージもありました

平成２３年（２０１１年）の東日本大震災後。繰り返し流れたＣＭの中で、ケンカをした子供たちのストーリーに合わせて、金子みすゞさんの「こだまでしょうか」を静かに朗読するＣＭがありました。

こだまでしょうか

金子みすゞ

『遊ぼう』っていうと『遊ぼう』っていう。
『ばか』っていうと『ばか』っていう。
『もう遊ばない』っていうと『遊ばない』っていう。
そうして、あとでさみしくなって、
『ごめんね』っていうと『ごめんね』っていう。
こだまでしょうか、いいえ、だれでも

この後、男性の声で「やさしく話しかければ、やさしく相手も答えてくれる」という語りが入る……という構成で、改めて人と人のつながりを考えさせられるＣＭでした。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール２１　先生にあいさつしよう

学校中の先生の名前を覚えて、見かけた時にはきちんとあいさつしよう。

●学校にいる人全員を知っていれば、そのぶんきみたちは居心地（いごこち）がよくなる。校内に知っている大人が多いほど、何かが起こったときに助けてくれる人が多くなるからだ。